

## 「若者たちが語る戦後 75 年 ～若者から戦争体験者への手紙 1945→2020～」

### オンライン・シンポジウムを振り返って

2020年6月20日、憲法施行73年・千葉市空襲75年 戦争を繰り返さないための集い」千葉・平和のための戦争展「ピースフェア 2020 in 千葉」の一環として「若者たちが語る戦後75年～若者から戦争体験者への手紙1945←2020～」オンライン・シンポジウムを開催しました。長時間、ご視聴くださいました方々へお礼申し上げます。

『若者から若者への手紙 1945←2015』の3人の著者（落合由利子・北川直実・室田元美）と、戦争体験者に手紙を書いた4人の若者たち（関口純平・瀧元深祈・杉村元・元山仁士郎）が登壇し、参加者全員で、そのほとんどがすでにこの世を去られた戦争体験者のポートレートと静かに向き合いました。そして「過去・現在・未来」へと時を移し、戦争や平和をどう自分たちのこととして考えればいいのかを語り合いました。

若者たちは社会人、学生、海外の大学院で学ぶ人、フリーランスで働く人、それぞれ立場は違いますが、戦争体験者と向き合った感想や、75年前といま、そしてこれからについて、個人の体験や今取り組んでいることなどをもとに写真やビジュアルをまじえて語り、お互いに意見交換をするなど、有意義な対話の場をつくってくれました。ドイツに留学中の瀧元深祈さんはドイツの政府や市民が戦争からどんなことを学ぼうとしているのかを（ドイツでは「戦争の反対語は人権や民主主義だと考えられている」との話はとても新鮮でした）、また沖縄在住の元山仁士郎さんは辺野古の新基地反対運動から考える戦争を語りました。

オンライン・シンポジウムには10代～80代まで、70名を超える参加者（視聴者）がありました。開催後には53通のアンケートが寄せられ、「戦争、平和…とても難しいテーマに若者たちは真摯に向き合い、言葉を選び、正直に自分の考えを伝えてくれたように思います。そんな若者たちの姿勢に

刺激を受け、同時に他の日本の若者たちにも自分を見つめ、自分の考えと向き合ってほしいと心から思いました。希望の糸が少し見えました」「沖縄の話とドイツの話、75年前の話と現在の話などが時空を超えて交錯し、新しいネットワークが生まれる瞬間に立ちあえたのがよかった」などの感想や「私も手紙を書いてみたい」という若い世代からの声、また今後の課題にしたいご助言もいただきました。

アンケートのまとめを添付ファイルでお送りしますので、ご覧ください。

いくつかのメディアからも取材をしていただき、朝日新聞には告知記事が、東京新聞には当日のオンライン・シンポジウムの様子が掲載されましたので、ご紹介します。

<朝日新聞の告知記事（6／16）>

<https://www.asahi.com/articles/ASN6H6STXN6DUTIL02F.html>

<東京新聞の記事（6／28）>

<https://www.tokyo-np.co.jp/article/38301>

\* しんぶん赤旗（7／18）でも紹介されました。

おわりに

『若者から若者への手紙 1945←2015』の3人の著者は、今後も戦後75年企画「手紙プロジェクト」（12／31まで）を続けます。10代、20代の方々のプロジェクトへの参加をお勧めいただけますと幸いです。

\* 学校単位で取り組んでくださる場合には、下記へお問合せ・ご相談ください。

<問い合わせ・送り先>

OfficeY&K（北川直実）

メール [officeyk@jcom.zaq.ne.jp](mailto:officeyk@jcom.zaq.ne.jp)

<手紙プロジェクトの詳細は>

<http://korocolor.com/news/202006-tegami-project2020.html>

『若者から若者への手紙 1945←2015』落合由利子・北川直実・室田元美